

第18回
東京都水道事業運営戦略検討会議
参 考 資 料

令和6年12月16日

目次

1	経営プラン2021における事業の振り返り	2
3	財政運営の振り返りと今後の方向性	3

○ 浄水施設の耐震化状況について

< 当局における断水被害軽減の考え方 >

- ・ 当局では、地震による断水被害を軽減するため、水道施設の耐震化と管路のネットワーク化等によるバックアップ機能強化の両面から総合的に取組を推進
- ・ このため、万が一、一部の施設に被害が生じた場合においても、これまで整備してきた送配水ネットワークを活用することにより、他の浄水場からバックアップを図るなど、水道システム全体で対応し、可能な限り給水を確保

< 浄水施設の耐震化状況 >

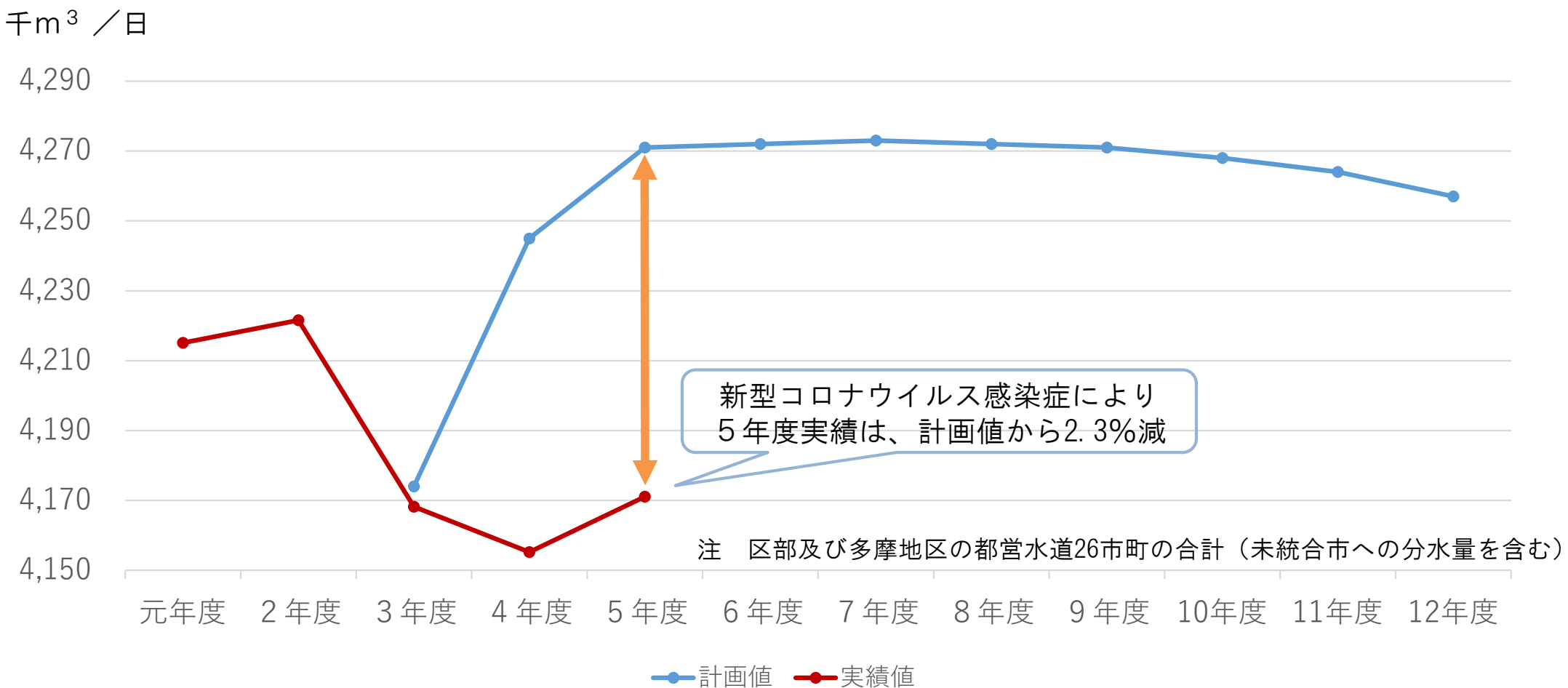
- ・ 施設整備指標の③浄水施設耐震化率は、着水井から配水池までの一連の施設全てを耐震化した率であり、令和5年度末の実績は14%
- ・ 一方、当局では、これまでのろ過池及び配水池の耐震化を優先的に推進
- ・ 今後、残りの沈殿池等の耐震化を着実に推進し、令和12年度に69%まで向上

指標	元年度実績	2年度実績	3年度実績	4年度実績
ろ過池耐震施設率	83%	83%	83%	83%
配水池耐震施設率 [※]	80%	81%	82%	82%

※配水池の耐震施設率の算定には、給水所も含んでいる

○ 一日平均配水量の実績について

- ・ 現行プランでは、3年度のみ新型コロナウイルス感染症の影響を反映
- ・ 一方、5年度までの実績を見ると、新型コロナウイルス感染症の影響による落ち込みが長引いており、実績は計画値より低く推移



※一日平均配水量の計画値は、料金収入算定に用いた調定水量から計算した数値である